

～ 日米安保 50 周年記念シンポジウム開催にあたって～

USJI 理事長 白井 克彦 主催者挨拶

ただ今、ご紹介にあずかりました、日米研究インスティテュート理事長の白井でございます。シンポジウム開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年4月、京都大学、慶應義塾大学、東京大学、立命館大学、早稲田大学の5大学は、共同で米国ワシントン DC に「日米研究インスティテュート」を設立しました。

正式名称は、U.S.-Japan Reserch Institue で、愛称は「U・S・J・I」です。

本日は、USJIの研究テーマの1つである、「安全保障」に関して、安保改定 50 周年を記念してシンポジウムを開催いたします。

元駐日米国大使のマイケル・アマコスト様をお招きし、基調講演をいただくとともに、パネルディスカッションでは、シーラ・スミス様、パトリック・クローニン様、民主党から長島昭久議員、自由民主党から林芳正議員、そして柳井俊二元駐米大使をお招きし、日本の研究者とともに激論をかわしてもらうことになっております。

また、駐日米国大使館からジェームズ・ズムワルト首席公使ならびに、文部科学省から徳永保高等教育局長に、ご来賓を代表しまして、ご挨拶をいただきます。

ご出演者の皆様、ご来賓の方々、お忙しい中、ご協力賜りありがとうございます。

本日は、900名を越える申し込みがありましたが、ご来場賜りました皆様におかれましても、USJIを代表しまして御礼申し上げます。

昨年3月に東京で設立国際シンポジウム「オバマ新政権と今後の日米関係」を、昨年9月にワシントンで「How quickly can we recover from Global Financial Crisis ?」をテーマにシンポジウムを、今年2月にもワシントンで「鳩山政権の重要課題の日米関係への影響」と題して、「安全保障」「環境・エネルギー」「東アジア共同体」をテーマに連続セミナーを2日間にわたり、開催しました。

日本の政局が大変混迷している中、ワシントンで開催する日本関係のセミナーに、関心を持ち始めた米国人が増え、USJI主催のセミナーにも、大勢のご来場者をお迎えしております。

ますます、USJIの役割、責任は大きくなってまいりました。

USJIのポリシーは、国立・私立大学の壁を越え、国境を越え、産業界や政府関係機関とも連携し、地球が抱える様々な問題に、果敢に挑戦していくことです。

今年の1月には、ホワイトハウス近くの、ワシントンDC中心街に、小さいながらも、オフィスを構え、本格的な研究活動の準備が整いました。現在、USJIは5つの大学が運営しておりますが、今後は日本の他の大学のみならず、ジョージワシントン大学、ジョージタウン大学、ハーバード大学、イエール大学など米国の大学も仲間に入れて、現在地球が抱えている数々の大きな課題に対して、政策提言を発信していきたいと考えております。

本日のシンポジウムは、その一環でもあり、産業界、メディア界の協力も得て、今、多くの方々がその行く末を危ぶんでいる「安全保障」の問題をアジアからの視点を入れて熱い議論をします。

最後になりましたが、本シンポジウムにご協賛いただきました企業様、USJI全体にご支援をいただいております企業様、官公庁様、ならびに、メディア関係の皆様、ご協力賜り深く感謝申し上げます。

ご清聴どうもありがとうございました。

以上